



え・城谷俊也

意欲と実行が 仕事を成就させる

カーアクションで、自動車が火の輪や爆発をかくくぐる

シーンは迫力満点です。片輪走行をするカースタントのシーンなどでは、そのテクニクに驚嘆させられるものです。

しかし、これはあくまでショーや曲芸の世界の話です。事業経営が曲芸では、毎日ハラハラドキドキで身が持ちません。片輪走行の不安定さでは、周囲も気が気ではないでしょう。

自動車においては、前後左右の車輪が接地して、同じ方向に回転するから安心して走れるように、仕事においても、地に足の着いた安定感が求められます。

会社経営においては、「経営者」と「社員」は両輪の関係にあるといえます。企業理念や創業の精神を、経営者も社員も共通認識として持っていることは、両輪が同じ方向へ回っていることに通じるでしょう。経営者の思いと社員の思いの一致は、社内の一体感やお客様への信頼にもつながります。

「事業」と「家庭」も両輪です。

お客様第一をモットーに起業したAさんは、あわせて、和やかな家庭づくりに努力しています。「企業は社会のためにある」という信念と「家族を大切にする」という心が両輪となって、事業の安定と繁栄に結びつきました。

また、仕事をする上で、「意欲」と「実行」が両輪として補い合い、高め合っていることも大切です。

金属加工会社で働く若手のBさんが、一つの仕事を任せられました。機械を使って、金属材料に傾斜をつけていく作業です。

Bさんは、若い自分が仕事を任せられたことに喜びを感じ、やる気に満ちていました。ところが、実際にやってみると、製品としての精度がなかなか高まらず、さらに、完成まで時間がかかって仕方ありません。(やろう)という意欲はあるものの、思うようにマスターすることができないのです。

〈このままでは埒があかない。通り一遍のことではなく、何かチャレンジしてみよう〉

そのように思い立ち、先輩の仕

事を傍から見ているだけではなく、一挙手一投足を真似てみるようにしました。仕事だけでなく、休憩や昼食も先輩と一緒にとるようにしました。

すると、これまでの停滞が嘘のように、作業スピードが増した上に、完成品の精度も上がっていました。やがて、自分なりのアイデアも製品に加味され、部門のリーダーを任せられるまでに成長したのです。

このように、「意欲」と「実行」は両輪の関係にあります。(こうしたい)〈こうなりたい〉という意欲があっても、実行が伴っていないければ、なかなか実になりません。また、実行力はあっても、(何のために)〈どうしてもこれがしたい〉という信念がなければ、その働きは空回りしてしまいます。

経営者と社員、事業と家庭、意欲と実行など、仕事を進める上で両輪は、求めれば様々にあることでしょう。そのどちらもが安定して回っていくように心がけたいものです。